

日産財団研究助成（社会学分野）報告書

1．研究テーマ：将来の移動体におけるエンタテインメント性に関する研究

Study on the Aspect of Entertainment for the Future Vehicles

2．研究代表者・共同研究者：

研究代表者：京都大学学術情報メディアセンター教授 土佐尚子 (Naoko Tosa)

共同研究者：シンガポール国立大学教授 中津良平 (Ryohei Nakatsu)

3．和文アブストラクト

本研究は、今後の社会において移動体特に車が持つべきエンタテインメント性に関して、文化の観点を視点に入れつつ調査と提言を行おうとするものである。現在は移動体およびエンタテインメントに関して大きな変換期にある。したがって、単に表面的に現在の動向に目を向けるのではなく、移動体の持つ意味やエンタテインメントの持つ意味の根本に帰って考察を行い提言を行うことが望ましい。

移動体、エンタテインメントはそれらに関連する技術の進展を推進すべき分野であると共に、社会的インパクトの大きさや世界レベルでの問題である事から、優れて文化的な面を持っている研究分野でもある。

多文化の側面を考えると、当初から国際的立場から本研究を推進する事が必要である。本研究では、日本に拠点をおく申請者とシンガポールに拠点をおく共同研究者が共同研究を行う事により、将来の移動体が持つべきエンタテインメント性をグローバルな視点から明らかにする。

4．英文アブストラクト

For far various kinds of vehicles such as cars have been thought only as a method to transfer people to their destination quickly and efficiently. However as more and more people are traveling and will travel for business, sightseeing, etc., it is important for future vehicles to have the characteristics of entertaining people during their move. The purpose of this research is to investigate the basic points on the relationship between entertainment and vehicles.

For that purpose it is crucial to investigate the fundamental characteristics of entertainment such as what entertainment is and how to entertain people, etc. In addition as there is a close relationship between entertainment and other items such as art and design, it is important to investigate the relationship between entertainment and art/design.

As FY2011 is the first year of the project, we focused on the basic investigation as indicated above.

5 . 本文

5 - 1 研究の目的

本研究は、今後の社会において移動体を持つべきエンタテインメント性に関して、文化の観点を視点に入れつつ調査と提言を行おうとするものである。現在は移動体に関してもまたエンタテインメントに関しても大きな変換期にある。したがって単に表面的に現在の動向に目を向けるだけではなく、移動体の持つ意味やエンタテインメントの持つ意味の根本に帰って考察・提言を行うことが望ましい。また移動体・エンタテインメントはそれらに関連する技術の進展を推進すべき分野であると共に、社会的インパクトの大きさやさらには世界レベルでの問題である事から、優れて文化的な面を持っている研究分野でもある。移動体に関しては、移動手段としての側面から見た場合は世界共通の課題を考えれば良かったが、エンタテインメント性という観点から見た場合は文化の側面を十分考える必要がある。一方、現在ゲームがある種の踊り場を迎えているのはこれまでの文化に依存しない単純なゲームが一通り出現し、今後は文化コンテンツ等をゲームに取り入れる事が求められている事を示している。

本研究を日本の立場だけから考える事は危険性を持っている。携帯電話が日本という市場のみを追求したためにガラバゴス現象を引き起こした轍を踏まないためにも、当初から国際的立場から本研究を推進する事が必要である。日本に拠点を置く研究申請者と、シンガポールに拠点を置く共同研究者が密な共同研究を行う事により、将来の移動体を持つべきエンタテインメント性をグローバルな視点から明らかにする。

5 - 2 研究経過

(1) 基礎調査 (2011 年 4 月 ~ 8 月)

エンタテインメントとくに最近のデジタルエンタテインメントの発達に注目しエンタテインメントの持つ意味を考察する。さらにエンタテインメントの持つ文化的側面に注目し、エンタテインメントのあるべき姿についてグローバルな視点から考察する。

(2) 論文発表・アート展示 (2011 年 9 月 ~ 2012 年 1 月)

上記の基本考察の結果をベースとして国際会議論文にまとめると共に、国際会議の場で発表し専門家の意見を得る。また、上記の基本考察を可視化したメディアアート作品を作成すると共に、日本およびシンガポールにおいてアート展示を行い、一般の人々の意見・感想を得る。

(3) 報告書作成 (2012 年 2 月 ~ 3 月)

基礎調査、論文発表・アート展示の結果を踏まえ、将来のエンタテインメントのあるべき姿に関する提言を報告書としてまとめる。

5 - 3 . 研究成果

(1) 基礎調査

エンタテインメントが人間の歴史・文化に持つ本質的な意味を、メディア論、メディア歴史学、さらには哲学などの著書、論文を調査する事により研究し

た。その結果として最近のデジタルメディアの勃興とその影響が実は19世紀の電話や映画の発明に端を発しているという考え方を持つに至った。これを以下のジャーナル論文にまとめた。

Ryohei Nakatsu, Chamari Edirisinghe, "The Role of Movies and Telephony in the History of Communication Media," Entertainment Computing – ICEC2011, Springer LNCS 6972, pp.448-451.

さらにデジタルメディアを用いる事により、コミュニケーションにアート・デザイン的な側面を加える事ができるという考えに至ったので、これを以下の国際会議論文にまとめた。

Ryohei Nakatsu, Chamari Edirisinghe, "Artistic Communication Using Digital Media," Second International Conference on Culture and Computing, pp.151-152 (2011.10.21).

(上記2つの論文を参考資料として付録に添付する。)

(2) 論文発表・アート展示

上記の考え方をベースとして移動体に対する新しいエンタテインメント性を付加するための先行研究を行った。具体的にはデジタルメディアを応用して新しいデザイン・アートが制作できる可能性を追求し、これらをまとめて以下の形で国際会議で発表した。

(1) Naoko Tosa, Ryotaro Konoike, Ryohei Nakatsu, "KABUKI-MONO: The Art of Kumadori Facial Expression for Manga and Cosplay," Second International Conference on Culture and Computing, pp.98-103 (2011.10.21).

(2) Newton Fernando, Saipang Chan, Naoko Tosa, Ryohei Nakatsu, Adrian Cheok, Ajith Madurapperuma, "Personalized Cultural Information

for Mobile Devices," Second International Conference on Culture and Computing, pp.125-126 (2011.10.21).

(3) Naoko Tosa, Ryotaro Konoike, Ryohei Nakatsu, Alistair Swale, "HISTORIA: Filling the Gap of Time and Space," Second International Conference on Culture and Computing, pp.157-158 (2011.10.21).

また、制作されたデザイン・アート作品を広く一般の人々に展示する事により、人々の意見をもらい、それを将来の移動体を持つべきエンタテインメント性に反映するため、以下のアート展示を行った。

Naoko Tosa "Cultural Bits: Empowering Art of the Future," 3 September 2011 – 30 September 2011, Japan Creative Center (Singapore).

(アート展のチラシを本報告書の最後に添付する。)

5 - 4 今後の課題と発展

エンタテインメントの重要性、および最近のデジタルメディアとエンタテインメント性の関係はある程度明確化されたと考える。また、デジタルメディアを用いる事により新しいアートを制作しそれらが人々を楽しませる事もわかった。次年度は車の歴史やその意味を検討し、さらにそこにエンタテインメント性をどのように付加するかを検討する。

5 - 5 発表論文リスト

(1) Ryohei Nakatsu, Chamari Edirisinghe, "The Role of Movies and Telephony in the History of Communication Media,"

Entertainment Computing – ICEC2011, Springer LNCS 6972, pp.448-451.

(2) Ryohei Nakatsu, Chamari Edirisinghe, “Artistic Communication Using Digital Media,” Second International Conference on Culture and Computing, pp.151-152 (2011.10.21).

(3) Naoko Tosa, Ryotaro Konoike, Ryohei Nakatsu, “KABUKI-MONO: The Art of Kumadori Facial Expression for Manga and Cosplay,” Second International Conference on Culture and Computing, pp.98-103 (2011.10.21).

(4) Newton Fernando, Saipang Chan, Naoko Tosa, Ryohei Nakatsu, Adrian Cheok, Ajith Madurapperuma, “Personalized Cultural Information for Mobile Devices,” Second International Conference on Culture and Computing, pp.125-126 (2011.10.21).

(5) Naoko Tosa, Ryotaro Konoike, Ryohei Nakatsu Alistair Swale, “HISTORIA: Filling the Gap of Time and Space,” Second International Conference on Culture and Computing, pp.157-158 (2011.10.21).

3 September - 30 September 2011
JAPAN CREATIVE CENTRE

Cultural Bits: Empowering Art of the Future

NAOKO TOSA

Symposium
at Auditorium, Faculty of Engineering
National University of Singapore
2 September (Fri.) 6-8pm
Artist Talk and Panel
Panelist: Wong Yunn Chii,
Vibeke D Sorensen,
Oliver Grau, Jeffrey Ho,
Naoko Tosa, Ryohei Nakatsu

Opening
at Japan Creative Center
3 September (Sat.) 2-4pm
Artist Talk and Discussion
(see panelists on 2 Sept.)

Curator Talk and Artist Tour
at Japan Creative Center
10 September (Sat.) 2-4pm
Curator: Atsuhiko Shima

For more details, please visit JCC Website.

Japan Creative Centre (JCC)
4 Nassim Road, Singapore 258372
Website: <http://www.sg.emb-japan.go.jp/JCC/>
Contact: jcc@sn.mofa.go.jp, TEL 6737 0434

Tuesday to Saturday, 10:00am - 6:00pm
(Closed on Sunday, Monday)
Admission Free

NUS
JAPAN CREATIVE CENTRE
Kyushu Prefecture
JST